



第三國立銀行
 第百二十一國立銀行
 コルレスポンドス
 繼約証書目

和装本

ネ 4

3841





「コルレスポнденス」續約證書

東京第三國立銀行ハ本年十一月三十日ヲ以テ營業滿期ニ付私立銀行トナリ資
本金ヲ増加シ營業繼續ノ儀大藏大臣ノ認可ヲ得テ本年十二月一日ヨリ 株式會社 第
三銀行ト改稱シ總テノ權理義務ヲ繼承シ營業ヲ爲スニ據リ第三銀行本店ト

大坂第百一國立銀行 || トノ間ニ契約シタル「コルレスポнденス」ノ約

定ハ明治二十九年十一月期限ノ處尚ホ第百廿一國立銀行ノ營業滿期ニ至ル迄
繼續シ從來ノ約定ヲ履行スルニ協議決定シタル證トシテ本證貳通ヲ製シ雙
方記名調印ノ上各壹通ヲ交付候也

一第三銀行ヨリ第百廿一國立銀行ノ貸方ハ日歩貳錢貳厘
第百廿一國立銀行ヨリ第三銀行ノ借方ハ日歩壹錢七厘又荷
為換取立手数料ハ百四ニ付七錢ノ割ニ改正ス

昭和十二年
六月十六日
請求



明治二十九年十月一日

株式會社 第三銀行頭取

安田善四郎

取締役

松下一郎

支配人

長谷川千藏

第三銀行

頭取

竹田忠作

取締役兼支取人

宮崎寅次郎



コルレスホリデニス 継約証書

一第三國立銀行ト第百廿一國立銀行ノ間ニ結約シタルコルレスホリデニス区約定明治二十七年十月限リ満期付双方協議ノ上都テ本約定ノ各項ヲ履行シ尚ホ明治二十九年十月迄延期継約セリ依テ此証書流通ヲ容シ互ニ記名調印ノ上交付セ也

但本約定書ニ記載ノ雜收入ト全年教科

此際廢止ス

第三國立銀行頭取 安田善四郎

取締役

松下一郎



明治二十九年十月

全 支配人

長谷川千蔵



第百廿壹國立銀行

頭取

竹田忠作



全 取締役

天野熊三郎



全 取締役兼支配人

宮崎孫三郎



約定書

第三國立銀行

第百廿一國立銀行

総次冊

東京第三國立銀行

大阪第百廿一國立



東京第三國立銀行ト大阪第百廿一國立
銀行トノ間ニ「コルレスポシデンス」ヲ締結シ取引
ヲ開クニ付双方協議ノ上決定シタル約定
左ノ如シ

第一條

此「コルレスポシデンス」ノ約定ヲ爲シタル上ハ互ニ送金手形ヲ
振出ス金額ハ參千圓迄ヲ限リトスヘシ

但双方ノ都合ニヨリ照會濟ノ上ハ此定額以上モ貸借スル事
ヲ得ヘシ此場合ニ於テハ總テ本條約ヲ履行スルモノトス又
定額以内ト雖モ金融繁劇ノ際ハ一時其振出シヲ断ルルモア
ルヘシ尤モ前以テ其旨ヲ通知シ又通常ニ復スル時モ同様通

知スルモノトス

第二條

此取引ハ双方ノ信用ニ據リ契約シタル者ナレハ無抵當タルヘ

シ

第十三條

第一條ニ約定シタル金額ハ双方ノ間ニテ貸借ノ限額ナレハ若

シ通常爲換ノ外代金取立手形及ヒ割引手形荷爲換等ノ受拂ヲ

爲スモ同ク此額内ヲ以テスヘシ

第四條

第一條ニ約定シタル金額ノ内甲ノ一方ヨリ乙ノ一方へ對シ借

リ方トナリタル時若シ甲ノ一方ヨリ乙ノ一方へ對シ貸シ方ア

レハ其貸方ヲ此送金手形ニテ取附ケ猶約定限額迄ハ振出ス
ヲ得ヘシ

第五條

手形面ノ金額ニ用ユル數字中一二三ノ四字ハ最モ描改シ易

キ文字ナレハ必ス壹貳參拾ノ文字ヲ用ユヘシ若シ一二三ノ

文字ヲ記載シタル手形ヨリ生スル損失ハ其振出元ノ損失タル

ヘシ

第六條

双方ヨリ振出シタル手形等ヨリ差引計算シテ成立タル貸借ノ

利子ハ**第百廿一國立銀行**ノ借方ハ**年六歩五厘**

即チ一日三付元金
七萬貳千分三

ヲ**第三國**

立銀行本店へ拂渡シ又**第三國立銀行本店**ノ借方ハ**年五歩五厘**

即チ一日

ニ付元金 貳萬分參 第百世國三銀行へ拂渡スヘシ此計算八年兩度十一月

元利共決算授受スヘシ尤モ雜勘定ヲ以テ振込タル金額及ヒ諸
取立金ノ利子ハ其入金ノ翌日ヨリ起算スルモノトス

但第一條但書ノ定額以上貸借利子ハ其時々約束スルモノニ
シテ此限ニアラス

第七條

電信送金ハ商業上欠ク可ラサルモノナリト雖モ錯誤ヲ生シ易
ク危険尠カラサル者ナレハ依頼人ノ身元穩當ニシテ事實止ヲ
得サル者ノ外妄ニ之ヲ取組ム可ラス

第八條

此電信送金ハ豫テ兩銀行ノ間ニ決定セシ電信符號即チ暗號ヲ

以テ之ヲ取組ムヘシ而シテ銀行ニ於テハ該依頼人ヨリ渡先へ
通知セシ電報ノ要領ト之ヲ比較シ符合セサル所アレハ其拂方
ヲ拒絶スヘシ

但電信符號ハ秘密ヲ要スルモノナレハ兩銀行ニ於テモ重役
并該係り員ノ外漫ニ之ヲ知ラシムヘカラス

第九條

此電信送金ノ金額モ第一條ニ掲ケシ極度金額ノ内ヲ以テ互ニ
之ヲ振出スヘシ

但此送金ヲ取組タルキハ速ニ其金額依頼人及ヒ渡先ノ姓名
等詳細郵便ヲ以テ報道スヘシ

第十條

電信送金ヲ取組ニ當リテ暗號ノ錯誤若クハ不注意ヨリ生スル
損失ハ其振出元ニ於テ負擔シ又仕拂方ニ於テ同様ノ事アルキ
ハ無論其仕拂方ノ負擔タルヘシ

第十一條

送金手数料ハ總テ本送金割引等ヲ論セス其手数料ヲ收受スル
方ノ所得タルヘシ

第十二條

荷爲換取立手数料ハ 千圓以下百圓ニ付金松身
十圓以上百圓ニ付金五錢ノ割又諸手形取扱手數
料ハ都テ百圓ニ付金四錢ノ割合ヲ以テ其仕向ケタル銀行ヨリ
仕向ケラレタル銀行ヘ仕拂フヘシ

第十三條

送金手形荷爲換割引代金取立手形等ヲ双方ヨリ仕向ケルニハ
金額ノ多少ニ拘ラス即日案内狀ヲ以テ金員及其事由ヲ通知シ
時々双方ノ勘定ヲ照算シ其他商業上關係ノ要件ハ互ニ之ヲ打
合スヘシ

第十四條

甲乙互ニ振出シタル爲換金額ノ渡シ方ヲ怠ルカ或ハ決算ノ后
ニ至リ双方ノ間ニ貸越トナリタル金額ヲ返却ニ怠ル等ノ事ハ
素々信義ヲ固守シ無抵當ニシテ此「コルレス」ポンド「ス」ヲ結約
シタル兩銀行ノ間ニ於テ無論有間敷キ事ト雖モ若シ違背ノ事
アレハ其事由ヲ上訴シテ裁判ヲ仰クヘシ然ルニ於テハ返却期
限ヨリ所決濟マテ第六條ニ定メタル利息ハ勿論尚該違約ヨリ

生スル損害金ヲ仕拂フヘシ

第十五條

此約定條款中自然更正添削ヲ要スル件アレハ双方ヨリ文通ニ
テ相照會シ承諾ノ上日ヲ定メテ施行スヘシ

第十六條

此「コレレスボンデンス」ノ約定ハ明治四年十二月ヨリ同七年

十一月マテテ期限ト定ムヘシ尤モ猶延期ヲ要スルキハ期限一ヶ

月前ニ双方ヨリ之ヲ照會シ更ニ約定ニ及フヘシ

右之條々約定セシ證據トシテ茲ニ連名調印致候也

金
銀
手
通
書
等
類
ハ
同
様
ニ
行
フ
事
ト
ス

第三國立銀行頭取

安田善四郎

同取締役

松下一郎右衛門

同支配人

安田忠告衛

第百拾壹國立銀行頭取

竹田忠作

同取締役

貴田孫治郎

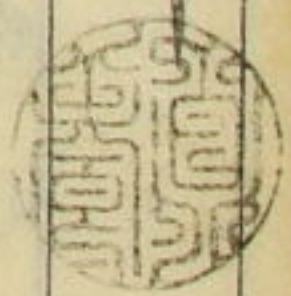
同兼支配人



明治四年五月



宮崎 稱三郎



此約定書貳通手製衣之互に交附候也

書留書記多聖源右馬

約定書

第三國立銀行
第百廿一國立銀行

約定書

第三國立銀行
第百廿二國立銀行

第三國立銀行

第百廿二國立銀行

平

約定書

第三國立銀行
第百廿一國立銀行

東京第三

第三國立銀行

第百廿一國立銀行

千圓



總行在東京

東京第一國立銀行
及第百廿國立銀行
第三國立銀行

東京第一國立銀行
及第百廿國立銀行
間ニ於テコレスポンデンスヲ締結シ取引ヲ開クニ付
双方協議ノ上決定シ各約定左ノ如シ

第一條

此「コレスポンデンス」ノ約定ヲ爲シタル上ハ互ニ送金手形ヲ
振出ス金額ハ參千圓迄ヲ限リトスヘシ
但双方ノ都合ニヨリ照會濟ノ上ハ此定額以上モ貸借スル事
ヲ得ヘシ此場合ニ於テハ總テ本條約ヲ履行スルモノトス又
定額以内ト雖モ金融繁劇ノ際ハ一時其振出シヲ断ルルモア
ルヘシ尤モ前以テ其旨ヲ通知シ又通常ニ復スル時モ同様通

二十元金
二万金
第三百廿二國立銀行へ拂渡スヘシ此計算八年兩度十一月

元利共決算授受スヘシ尤モ雜勘定ヲ以テ振込タル金額及ヒ諸
取立金ノ利子ハ其入金ノ翌日ヨリ起算スルモノトス

但第一條但書ノ定額以上貸借利子ハ其時々約束スルモノニ
シテ此限ニアラス

第七條

電信送金ハ商業上欠ク可ラサルモノナリト雖モ錯誤ヲ生シ易
ク危険尠カラサル者ナレハ依頼人ノ身元穩當ニシテ事實止ヲ
得サル者ノ外妄ニ之ヲ取組ム可ラス

第八條

此電信送金ハ豫テ兩銀行ノ間ニ決定セシ電信符號即チ暗號ヲ

以テ之ヲ取組ムヘシ而シテ銀行ニ於テハ該依頼人ヨリ渡先へ
通知セシ電報ノ要領ト之ヲ比較シ符合セサル所アレハ其拂方
ヲ拒絶スヘシ

但電信符號ハ秘密ヲ要スルモノナレハ兩銀行ニ於テモ重役
并該係り員ノ外漫ニ之ヲ知ラシムヘカラス

第九條

此電信送金ノ金額モ第一條ニ掲ケシ極度金額ノ内ヲ以テ互ニ
之ヲ振出スヘシ

但此送金ヲ取組タルキハ速ニ其金額依頼人及ヒ渡先ノ姓名
等詳細郵便ヲ以テ報道スヘシ

第十條

電信送金ヲ取組ニ當リテ暗號ノ錯誤若クハ不注意ヨリ生スル
損失ハ其振出元ニ於テ負擔シ又仕拂方ニ於テ同様ノ事アルキ
ハ無論其仕拂方ノ負擔タルヘシ

第十一條

送金手数料ハ總テ本送金割引等ヲ論セス其手数料ヲ收受スル
方ノ所得タルヘシ

第十二條

荷爲換取立手数料ハ千四以下百四ニ付金拾銭ノ割又諸手形取扱手数料
千四以上百四ニ付金五銭ノ割又諸手形取扱手数料
料ハ都テ百圓ニ付金四錢ノ割合ヲ以テ其仕向ケタル銀行ヨリ
仕向ケラレタル銀行ヘ仕拂フヘシ

第十三條

送金手形荷爲換割引代金取立手形等ヲ双方ヨリ仕向ケルニハ
金額ノ多少ニ拘ラス即日案内狀ヲ以テ金員及其事由ヲ通知シ
時々双方ノ勘定ヲ照算シ其他商業上關係ノ要件ハ互ニ之ヲ打
合スヘシ

第十四條

甲乙互ニ振出シタル爲換金額ノ渡シ方ヲ怠ルカ或ハ決算ノ后
ニ至リ双方ノ間ニ貸越トナリタル金額ヲ返却ニ怠ル等ノ事ハ
素々信義ヲ固守シ無抵當ニシテ此「コルレス」ポンドンス「ヲ」結約
シタル兩銀行ノ間ニ於テ無論有間敷キ事ト雖モ若シ違背ノ事
アレハ其事由ヲ上訴シテ裁判ヲ仰クヘシ然ルニ於テハ返却期
限ヨリ所決濟マテ第六條ニ定メタル利息ハ勿論尚該違約ヨリ

生スル損害金ヲ仕拂フヘシ

第十五條

此約定條款中自然更正添削ヲ要スル件アレハ双方ヨリ文通ニテ相照會シ承諾ノ上日ヲ定メテ施行スヘシ

第十六條

此「コルレスポネデンス」ノ約定ハ明治廿年十二月ヨリ同廿四年十月マテヲ期限ト定ムヘシ尤モ猶延期ヲ要スルキハ期限一ヶ月前ニ双方ヨリ之ヲ照會シ更ニ約定ニ及フヘシ
右之條々約定セシ證據トシテ茲ニ連名調印發候也

第百廿國立銀行預取

竹田忠作

同取締役

貴田孫治郎

同取締役兼支配人

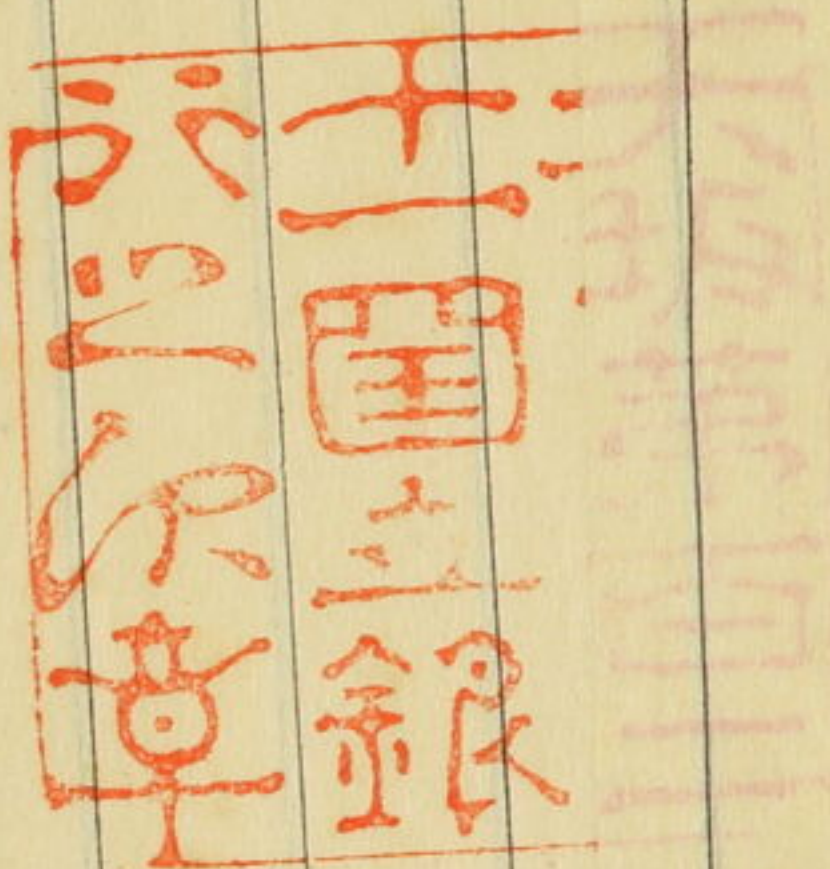
宮崎彌三郎

五

同取締役

貴田孫治郎

同取締役兼支配人

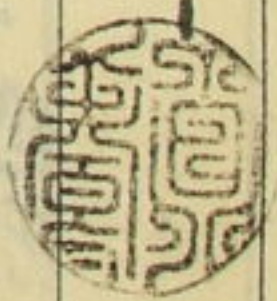


第百廿國立銀行預取

竹田忠作

五

宮崎彌三郎



約定書通_ナ製_ニ互_ニ交付候也

書留書記

小瀬光清



